

林業における労働安全と フォレスターの役割

講義の概要

- 1 フォレスターに求められる役割
- 2 労働安全衛生法における事業者、労働者の役割
- 3 林業における労働災害の発生状況
- 4 災害発生事例
- 5 地域の森林・林業の再生を牽引していくフォレスターの任務
- 6 リスクアセスメントの進め方
- 7 リスクアセスメント演習・質疑応答

フォレスターに求められる役割

- ① 林業における労働災害の発生状況は中長期的にみると減少傾向
- ② 他産業に比べると発生率が高く、死亡災害の割合が多い
→ 全産業平均の10倍を超える発生率

木材価格の低迷の中で利益を上げるため、伐出コストの低減（労働生産性高める）を求める傾向
→ 過度な労働による事故の危険性が増大

フォレスターは長期的視点に立った地域の森づくりを計画し、的確に指導できる技術者であり、その役割には林業における安全な職場環境の構築の支援も含む

今後、搬出間伐等木材生産の増加が見込まれる中、林業労働災害防止のため、フォレスターは安全作業実施の基本的事項等が守られていない場合、各局面等において関係者に対し、指導・助言

- ◆ 経営トップに対する指導・助言
- ◆ 森林経営計画の作成段階での森林施業プランナー等に対する指導・助言
- ◆ 森林経営計画の実行管理段階での経営トップ等に対する指導助言
- ◆ リスクアセスメントの推進
- ◆ 労働行政との連携

労働安全衛生法における 事業者、労働者の役割

●労働災害の防止のための最低基準を守るだけでなく、快適な職場環境の実現と労働条件の改善を通じて職場における労働者の安全と健康を確保するようにしなければならない。

●労働災害の防止するため必要な事項を守るほか、事業者その他の関係者が実施する労働災害の防止に関する措置に協力するように努めなければならない。

事業者

労働者



林業における労働災害の発生状況

■ 林業の労働災害発生状況

(単位:人)

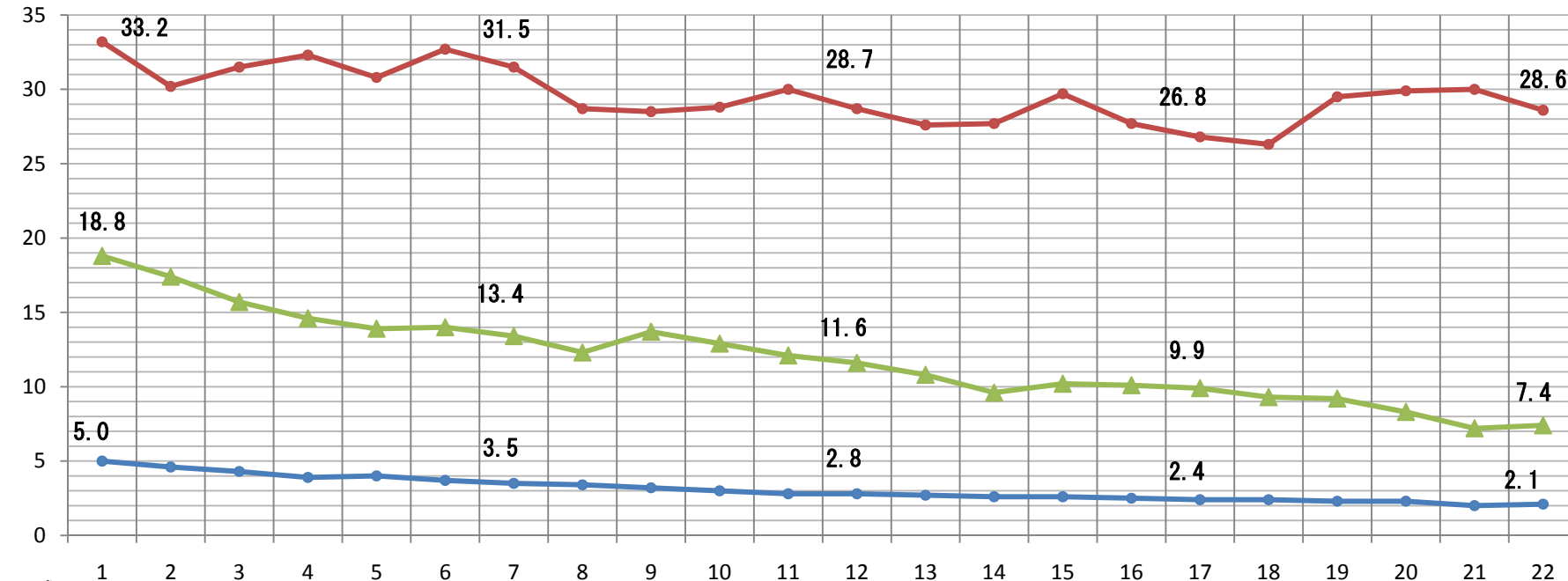
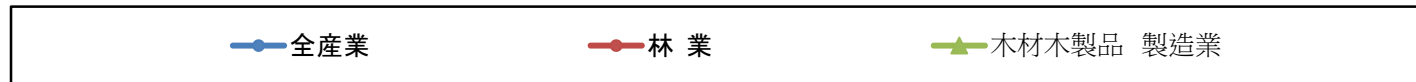
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
死傷	2,392	2,171	1,972	2,080	2,073	2,128	2,149	1,657
死亡	46	47	57	50	43	43	59	37

注)H23は速報値

他産業と比べて
極めて高い発生率

災害発生頻度(年千人率)の推移

(年千人率)



平成

資料:労働者災害補償保険事業年報及び労災保険給付データ(厚生労働省)

注:年千人率とは、労働者千人当たり1年間に発生する休業4日以上の死傷者数を示す。

林業労働災害の状況 1

◆どんなタイプの災害が多いか

平成22年の死亡災害の内訳

内 訳	件 数
伐倒時の災害	34
自分が被災者	26
他が伐倒したものを受けて	8
造材中の(枝払い、玉切り)の災害	6
集材中の災害	8
造林作業での災害	5
林道、作業道等	2
その他の作業	2
交通事故	2
計	59



◆最近の傾向はどうか

このうち

斜面等からの 転倒事故による災害	10
不適切な かかり木処理による災害	9
大型機械等使用 による災害	8

資料:厚生労働省「労働災害発生状況」
林野庁調査

林業労働災害の状況 1

死亡災害では不適切なかかり木処理などの伐木時の発生が大半

(H13年～H22年・全国)

■ 林業死亡災害に占める かかり木死亡災害

年次	林業全体の死亡災害件数	うち かかり木に起因した件数	比率(%)
13	54	8	15
14	49	8	16
15	61	11	18
16	46	9	20
17	47	12	26
18	57	12	21
19	50	7	14
20	43	9	21
21	43	9	21
22	59	10	17
計	509	95	19

■ かかり木処理作業別死亡災害内訳

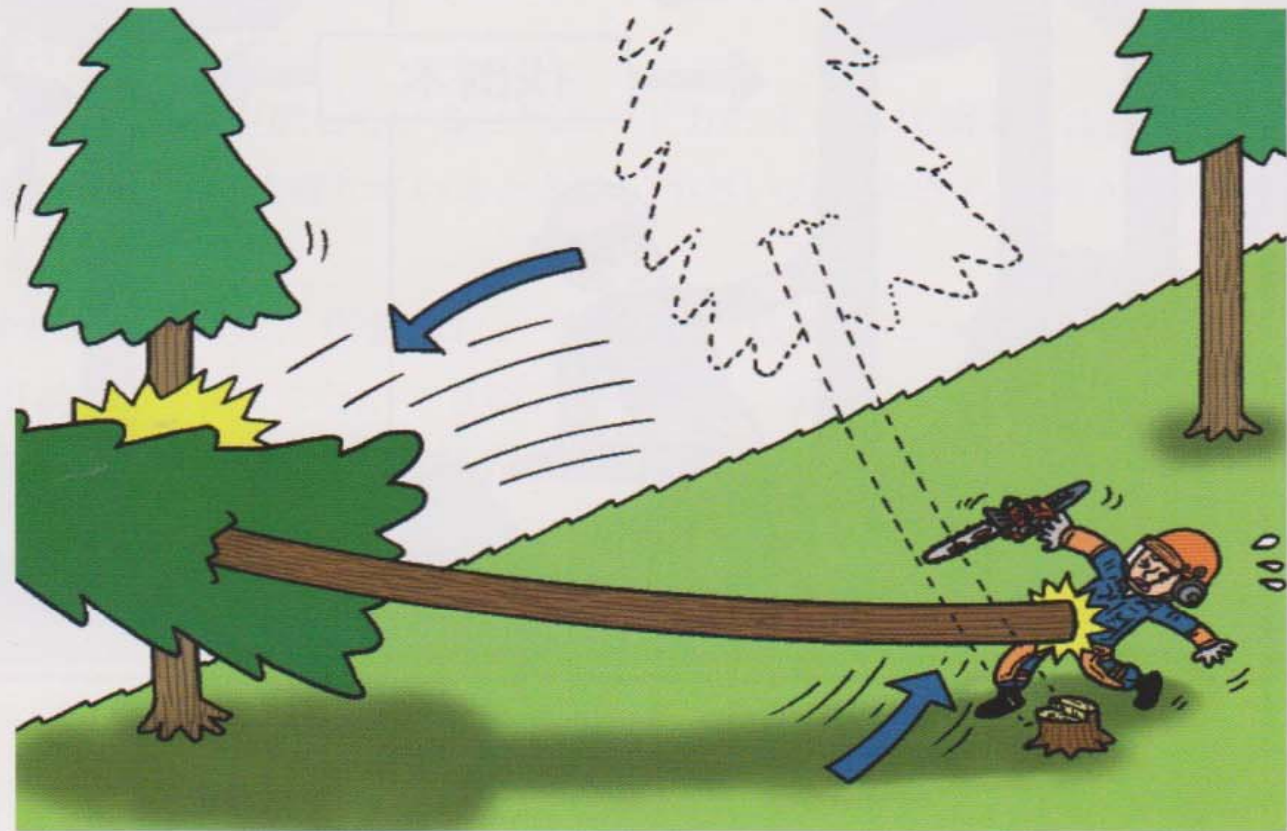
処理作業別	死亡災害件数	比率(%)
かかり木の放置	37	39
かかっている木の伐倒	20	21
かかっている木の元玉切り	17	18
他の立木の投げ(浴びせ)倒し	4	4
かかっている木の肩担ぎ	2	2
かかり木の枝切り	1	1
その他	14	15
計	95	100

災害事例▶1

伐倒木が立木に当たり、倒した木の根元が跳ね、作業者に激突

★災害のあらまし

スギ立木（胸高直径50cm、樹高25m）を伐倒したところ、伐倒方向が変わり、倒れた方向にあった立木に当たったはずみに、伐倒木の根元が跳ね上がり、作業者が突き飛ばされた。



★原因

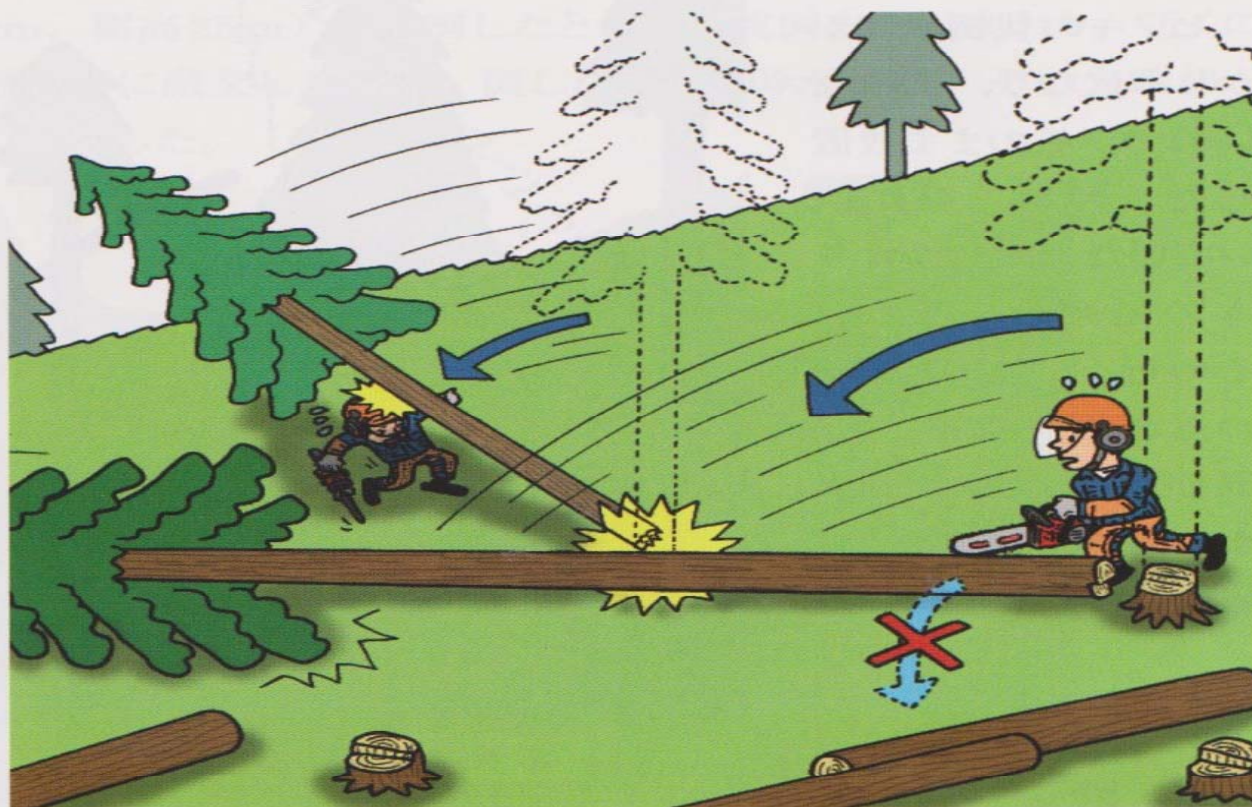
- ① 受け口が小さかったこと。
- ② 伐倒方向を確実にするためのくさびを使用しなかったこと。
- ③ 退避が遅れたこと。

災害事例▶2

伐倒木が、隣接木に接触し、退避していた同僚に激突

★災害のあらまし

傾斜約30度の斜面で、トドマツ立木（胸高直径68cm、樹高26m）を伐倒したところ、伐倒方向が変わり、約10m離れた箇所にあったトドマツに当たり、当てられたトドマツが根元から約1mのところまで折れ、伐倒作業が終わるのを退避して待っていた同僚の頭部に、折れたトドマツが激突した。



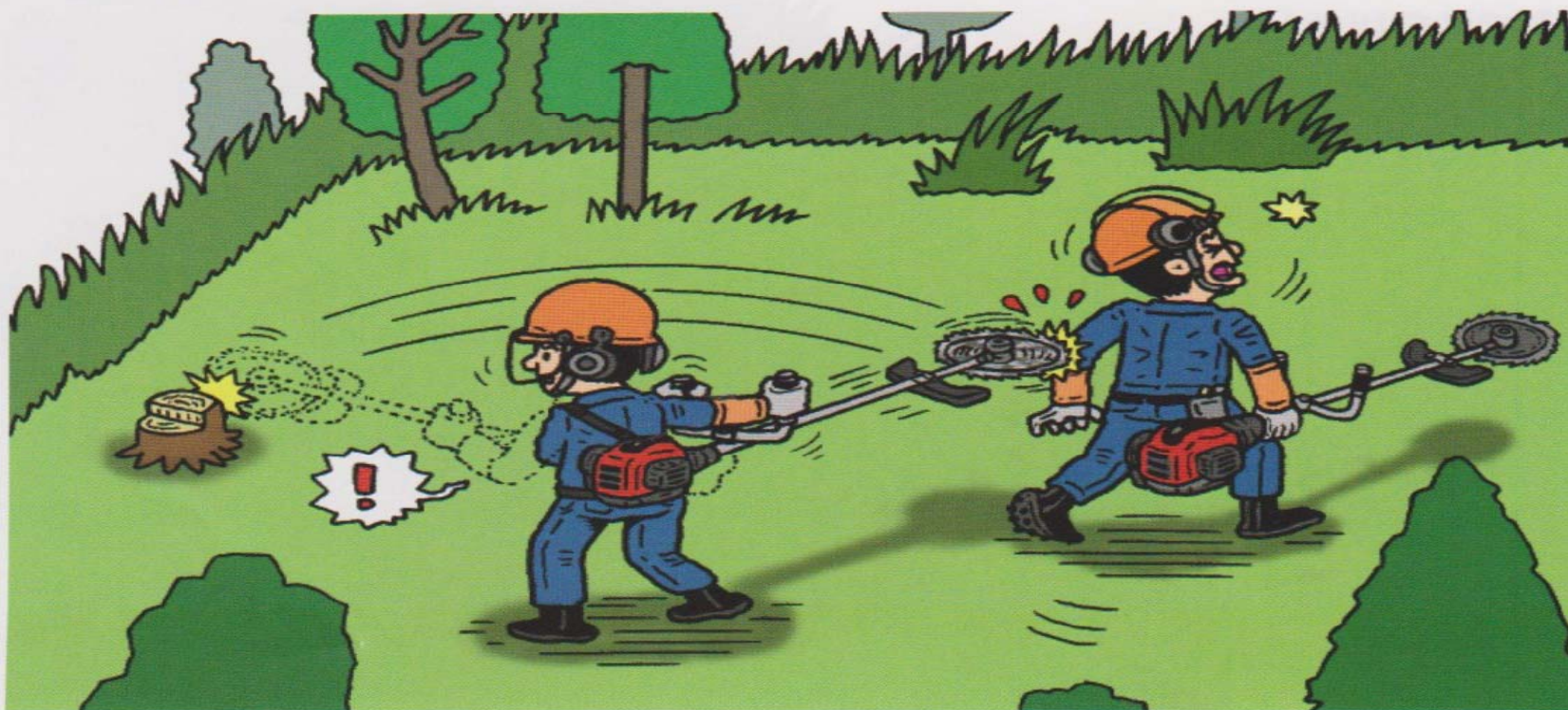
★原因

- ① 他の作業者の退避場所をよく確認しなかったこと。
- ② 受け口が小さく、追い口の切り込む位置が低かったこと。
- ③ くさびを使用しなかったこと。

除伐作業中、刈払機がキックバックで跳ね返り、通りかかった同僚に当たった

★災害のあらまし

刈払機で除伐作業中、刈払機が伐根に当たり、キックバックが起こったため、たまたまその側を歩いていた同僚に刈払機の刈刃が跳ね返り、同僚の左腕と左脇腹に当たった。

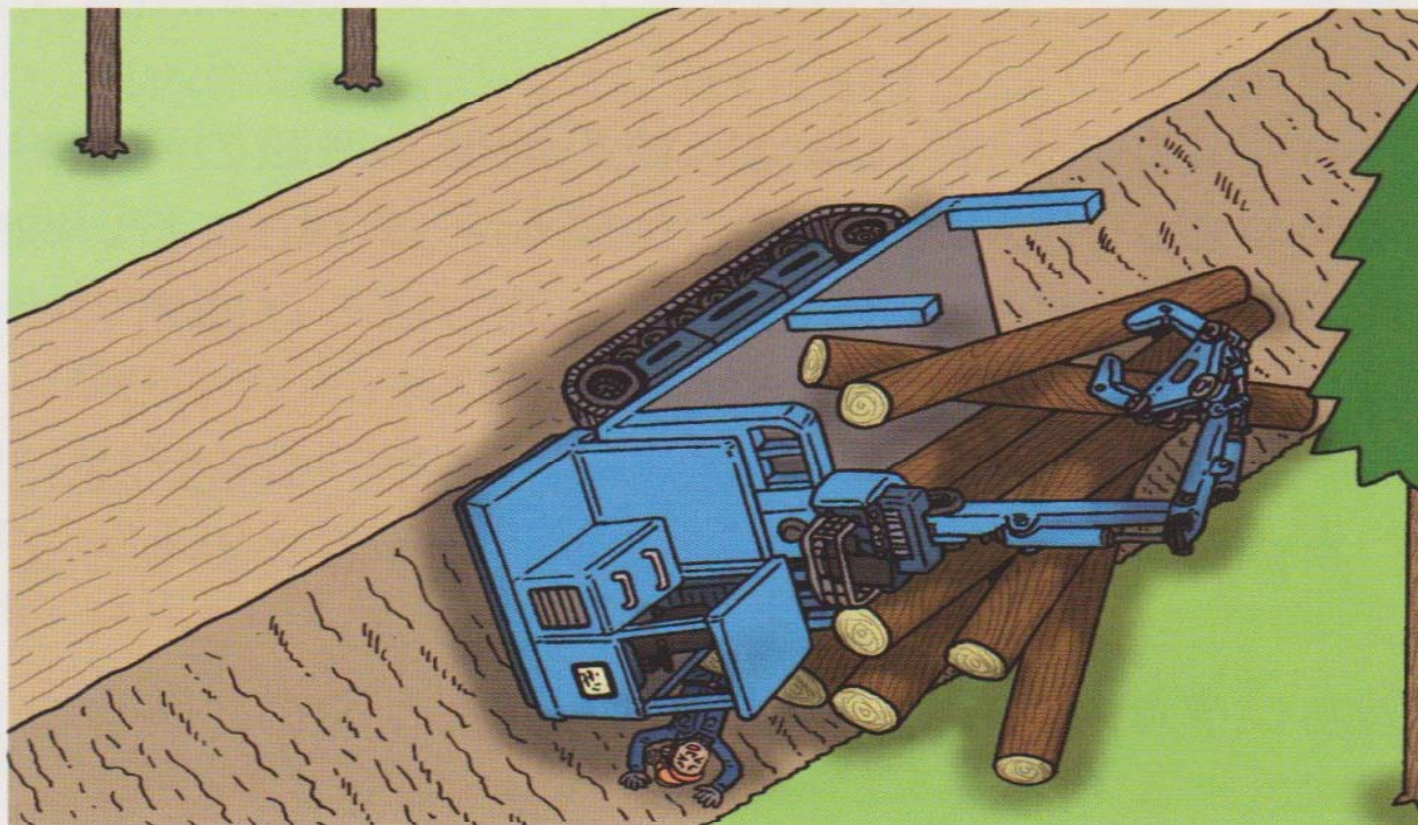


★原因

- ① 刈払機で作業中の危険区域を通ったこと。
- ② 近くを通るときに、作業者に合図をしなかったこと。
- ③ 刈払機が伐根に当たり、キックバックが発生したこと。

災害事例 5

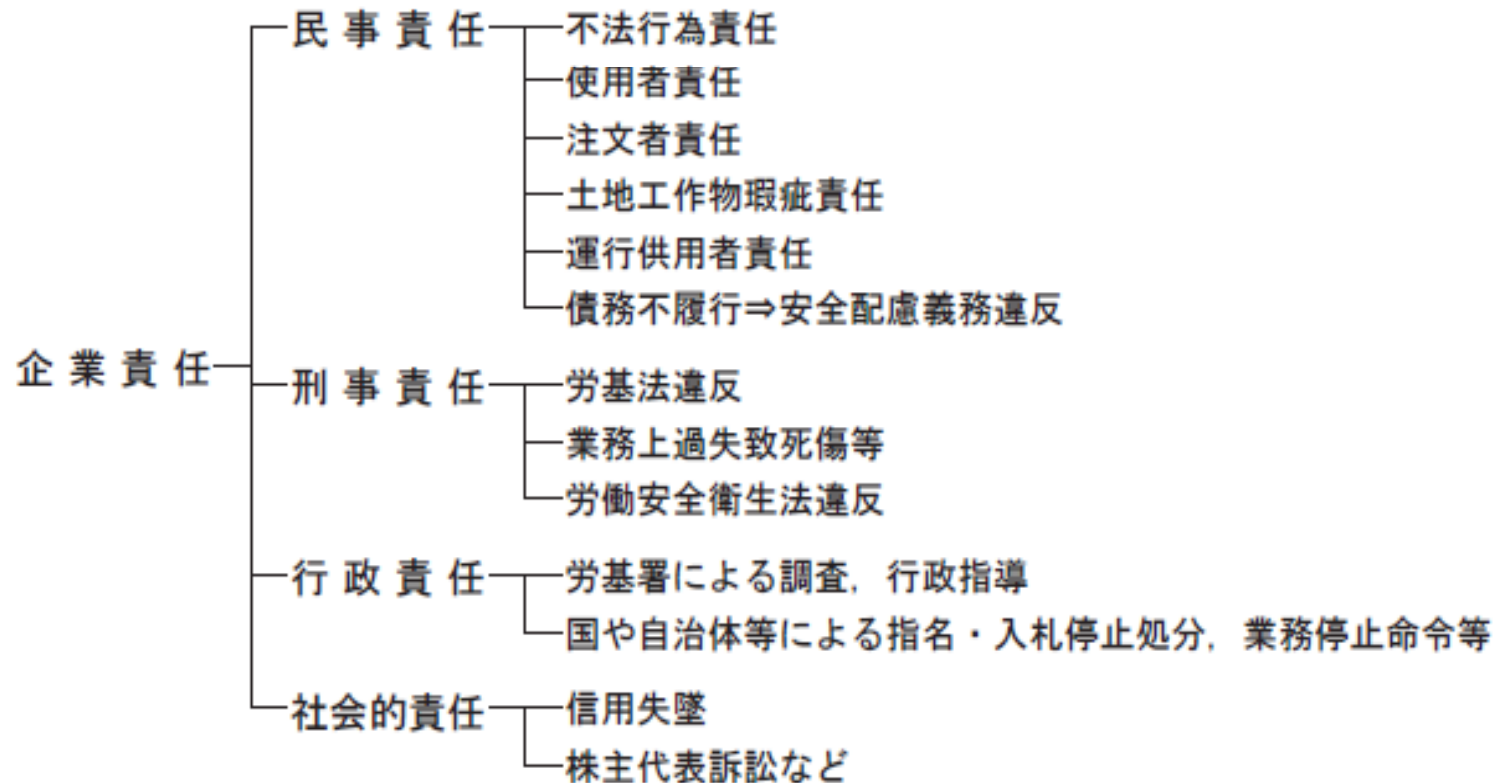
急勾配の降坂で、カーブを曲がりきれずに沢へ転落した。



- 1 過積載であった。
- 2 長い急勾配の作業路だった。
- 3 速度を十分に落としていなかった。
- 4 グラップルを前方に向けていた。

民事、刑事、行政そして社会的制裁

図表2 企業責任の種類



地域の森林・林業の再生を 牽引していくフォレスターの任務

皆さんは様々な場面で地域の人々や事業者とともに合意形成などの活動をしていく

そのような場で労働安全衛生の重要性和意識改革を訴え続けて欲しい



皆さんの活動のツールとして

→ リスクアセスメントの取組を体験していただく